

0 1	名古屋	笹島中学校	ナカムラ ジュン
			名前 中村 潤
分会番号	8	分科会名	音楽科教育

研究題目 音楽表現を深めることのできる生徒の育成
～異なる役割から同じ音楽を聴き、高めあう活動～

1 研究のねらい

私は、合唱曲を用いて、音楽を多面的に捉え、よりよい音楽表現を深めていくことができる生徒を育てたい。11月に扱う合唱には、歌唱や指揮、伴奏などの役割があり、それぞれ表現の手段や音楽への関わり方が異なる。こうした様々な役割を体験し、自分たちの演奏に対する考えや気づきを共有することで、よりよい音楽表現を創り上げる力を育成していきたい。

本学年の生徒は、授業に前向きに参加する生徒が多く、合唱にも意欲的に取り組む姿が見受けられる。また、音取りが得意で、音楽を聴いて大まかな流れをつかみ、音程やリズムを短時間で再現できる生徒が多い。実際にアンケートでは、「音楽を聴いて、メロディーを捉えることが得意」と答えた生徒は約8割に上った。

一方で、正しい音程やリズムを捉えた先の「音楽表現を深める」という点には課題が見られる。合唱のパート練習では、「もう一回歌ってみよう」と目的が曖昧なまま繰り返したり、楽譜の細かな表現記号を見落したりして、「ここが山場だから大きく歌う」など、大まかな表現だけで満足してしまうことが多い。また、自分たちの演奏について感じたことや考えたことを共有する際にも、適切な言葉が見つからず、自分の思いや気づきを十分に表現できない様子が見られる。

そこで本研究では、生徒たちが得意とする「聴くこと」に加え、楽譜から読み取れることや指揮から感じ取れることなど、複数の役割から一つの合唱曲を捉える活動を取り入れる。また、音楽について考えたことや感じたことを共有するためのキーワードを提示し、自分の考えを言葉で表現できるよう支援する。さらに、言葉だけでなく、指揮や歌声そのものを用いて音楽のイメージや意図を表現する活動を通して、多様な表現方法を身に付けさせたい。その中で、それぞれの役割で得た気づきや考えを共有しながら自分たちの演奏を評価し、よりよい音楽表現を工夫し深めていく力を育成したい。

2 研究の内容

(1) 研究対象 名古屋市立笹島中学校 2年生 14人

(2) 研究の手立て・実践計画

実践時期	学習活動	主要教材
6月	第1次実践 歌唱教材「翼をください」の楽譜から、歌詞と音楽の結びつきを考え、よりよい歌唱表現を考えさせる。	歌唱：翼をください
7月	第2次実践 鑑賞教材「運命」から、指揮者の動きや意図を考え、指	鑑賞：ベートーヴェン作曲交響曲第5番「運命」

	揮者の役割を理解するとともに、自分たちも表現方法として指揮者を体験する。	
10月	第3次実践 合唱・楽譜・指揮者・伴奏者の立場から音楽を捉え、よりよい音楽表現となるように、創意工夫する。	歌唱：学年合唱曲

3 実践の様子

実践① グループに分かれて、与えられた視点から曲を深く知る活動 教材：「翼をください」

(1) ねらい

楽譜から歌詞と音楽の関連を考えたり、録音を聴き、よりよい歌唱表現を考えるたりすることができる。

(2) 実践の流れ

学習活動	生徒の様子(○)と教師の支援(◆)
1 前時までに学習してきた「翼をください」を歌唱し、録音を聴いて、課題を出し合う。 2 本時のめあてを確認し、【男声】【女声】の役割について考える。 3 【声】【楽譜】の2つの役割に分かれて、声を聴いたり、楽譜を見たりして課題や情報を集める。	◆ おおまかな強弱変化や声の統一感など気付いたことを発表させる。 ○ 【録音を聴いた生徒の反応】 ・特定の人の声がよく聞こえた。一体感という意味ではあまりよくないかな。 ・男女のバランスが気になった。男子が大きい。 ◆ 【男声】【女声】も歌の中で、役割が変化することを確認し、バランスを工夫させた。 ○ 歌い試しながら考える様子が見られた。 ◆ 【楽譜】：伴奏の変化や細かな強弱表現、ソプラノの呼びかけと答えに着目させ、歌い方の工夫を考えさせた。 ◆ 【声】：Aのユニゾン、Bのオブリガート、Cのハーモニーに注目して聴き、課題を考えさせた。 ○ 【声】は自分たちの声の特徴を捉えることがよくできていたが、どのように改善するとよいか言葉で言い表すことに悩んでいる生徒もいた。
 【声チームの話し合いの様子】	全体的に元気すぎるというか、なんか雰囲気にあった声じゃないね
伴奏はABCで左手がかわってるね。	
ABは同じmfだけどパートが分かれているから1人1人の声の大きさは強い？	

4 【声】【楽譜】の2つの役割で出た意見を楽譜にまとめ共有する。  【生徒が作成した拡大楽譜】	【楽譜チームの話し合いの様子】 【生徒の発言】 ○ 伴奏について、A「片手はリズムが一定」、B「両手になった。AよりBの方が大きい」、C「左手の弾く回数が多くなった」と記述があった。これらはどれも合唱の強弱にも関連があると述べていた。 ○ Bのソプラノの「つばさ」の合いの手について、「つばさという言葉は次のクレッシェンドに行くためのきっかけで、「つ」→「さ」にかけて音程が上がっているので勢いをつける感じ」 ○ 「題名だからはっきりと、その後のリズムがゆったりだから、リズムを細かくしてるのかな」などの発言があった。 ◆ 【声】で出た課題と【楽譜】からわかったことが関連していることに気付くことができるようになった。
--	--

(3) 成果と課題

成果としては、議論に十分な時間があり、考えを深める場面がみられた。考える部分をこちらから指定したことで、より見通しをもっているようであった。考えを深めたことで、授業の始めよりも、授業の終わりで歌った歌の方が、声にまとまりがあるほか、メロディーも明確に聞こえ、サビの強弱も明確であった。また、振り返りではよりよい合唱にするために、「表情も気を付けたい」との記述も見られ、次の課題を見つけた生徒もいた。

課題としては、考える部分を指定したものの、はじめはどんなことに注目していいかわからず、意見も共有されにくい場面もあり、苦戦している様子も見られた。特に【声】は、自分たちの課題を的確に言葉にしていたが、どのような声にするとよいかという点で、思いを言葉として表出することに苦戦していたため、キーワードを一覧にしたものや、声の柔らかさや強さなどグラフ上で示せる工夫があるとよいと感じた。【楽譜】は、変化を捉えることができたが、捉えた情報を根拠に、歌い方の工夫につなげることが難しそうであった。もう少し簡単な題材などを用いて、楽譜から読み取った情報を演奏に活かす経験を積んでおくとよりよいと感じた。

実践②音楽を聴き、感じ取ったことを言葉や指揮で表現する活動 教材：ベートーヴェン作曲交響曲第5番

(1) ねらい

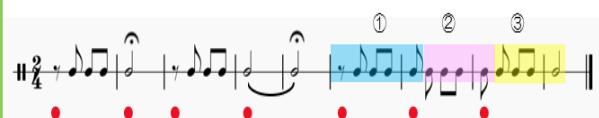
指揮者の動きや意図を感じ取り、実際に指揮者を体験して、指揮者の役割を理解することができる。

(2) 実践の流れ

学習活動	生徒の様子(○)と教師の支援(◆)
1 ベートーヴェン作曲交響曲第5番「運命」の動機について知り、指揮を体験する。	◆ 運命の動機で成り立っていることを伝え、指揮の基本的な動作と役割について確認させる。 ○ 「指揮はリズムを合わせる人」と答える生徒が多く見られた。

★指揮者体験コーナー

つぎのリズムを手拍子してみよう！どう指揮したらそうかな？●のところで拍を伝えよう！



【生徒が指揮する様子】

2 異なる指揮者の演奏を3つ聴き、それぞれの演奏の特徴を捉える。

せまってくる 広がる はげしい おだやか かたい やわらかい
まどまっている ぼろぼろ くり返しが多い 変化が多い 短い
長い音 くさる感じ 流れる感じ リズムがはっきり なめらか
同じ形のくり返し 重い 軽い 不思議な いさましい 迫力のある

【生徒の記述①】

指揮者	音色 音の切り方 音の伸ばし方
C 朝比奈隆	はじめから重厚に大きくのびている。 全体的に大きな音。こぼれ ずくのびている。 ゆめ、くりぬ。

3 捉えた音楽の特徴から、どんな指揮か予想し、映像を鑑賞する。

髪をふりながら、怖い顔している。

3人とも手の形や速さ、振り方が全然違う。



◆ 図の楽譜について、指揮者役と手拍子役に分かれ、声や音ではなく、指揮者役の手の振りだけで運命の動機がそうか体験させる。

- リズムを合わせることに精いっぱいとにかく拍を正しく振る生徒が目立った。
- 右手のみを使い、手の上下運動(基本的な1拍の指揮)が多く、フェルマータの長さも大きな違いは見られなかった。

◆ キーワードを提示し、音色や音の切り方、音の伸ばし方の違いを細かく捉えさせる。

- キーワードを使うことで、より具体的に自分の気付きを書くことができていたようだった。

【生徒の記述②】

指揮者	音色 音の切り方 音の伸ばし方
A 50.60代	通音がある。伸ばしてはいるが、はりととられている。 全体的にのびやかたすんだ。(セリととられている)
B 40.50代?	強い。強弱がはっきりしている。Aより運命がめぐる感じがする。(セリチ) 迫力があることと強弱が関係していることに気付いて記述している。

迫力があることと強弱が関係していることに気付いて記述している。

4 学習したことを振り返り、もう一度指揮者体験をする。



【指揮の様子①】

手の形を平らにし、小刻みに揺らすように指揮をしていた。

5 活動を振り返り、感想をワークシートに記入する。

曲の速さを決めたり、強弱アクセントをつけるところを演奏者に教えたり、どの程度にするかも決める。演奏している曲のどの楽器が主に音を出したりするかを、その楽器の方向をむいて教えたりする。演奏者にわかりやすい動きをしないといい指揮者と言われると思う。

【生徒の振り返り】

◆ 再度、指揮を振ったりし見たりして、指揮者の役割を確認させる。

○ 「指揮者は拍と音楽の感じ(音色)を出している」と答える生徒が多く、振り下ろすスピードが速くなったり、拍以外の部分で様々な工夫が見られたりした。



【指揮の様子②】

出だしのところで両手を大きく振り上げる様子。始まりの勢いや迫力が伝わってくる。

◆ どのような指揮者がよい指揮者と言えるのか、見本の指揮者として表現していたことや体験してみて感じたことを中心に再度考えさせた。

○ 拍だけでなく速さや音色など様々なことを伝えていることに気付いた生徒が多かった。

(3) 成果と課題

成果としては、キーワードを用いて演奏を比較したことで、生徒の記述が具体的になり、より細かな特徴を捉えることができていた。また、指揮をする際にも、指揮者の真似をしたり、自分なりの動作を用いて工夫したりする様子が見られた。動作を真似する生徒は、真似することを意識しすぎるあまり、音楽のニュアンスは伝わったが、拍がそろわないことが多かった。その経験をしたことで「拍」と「音楽の感じ(音色)」どちらか一方に偏りすぎるのではなく、バランスよく取り入れることが大切だと気付いていた。

課題としては、映像付きの鑑賞の際に、生徒は動作に注目していたが、その動作を見て気付いたことと音源だけで感じ取ったことをより結びつけるような働きかけをすることができるとよかったと感じた。指揮体験では、全員が体験することを重視していたため、それぞれの指揮について振り返る場面がなく、個人の振り返りになってしまったので、手拍子する生徒からのアドバイスなどがあるとよかった。

4 研究のまとめ

本研究では、11月の合唱曲においてよりよい音楽表現を実現することを目指し、一つの合唱曲について楽譜や自分たちの歌声といった役割から音楽表現を深める活動を行った。また、指揮による音楽表現を通して、指揮者の役割やその重要性について理解を深めることができた。生徒は、それぞれの役割を通じて、音楽をよりよくする方法を学習し、音楽表現を深める姿が見られた。実践後のアンケートでは、「指揮者がいると歌う人以外の見方ができる」「楽譜に気付いていないことがいっぱいあった」と振り返っていた。また、「音楽をよくする方法がわかる」と回答した生徒は、実践前よりも20%増加した。このことから、生徒は「楽譜」「声」「指揮」などそれぞれの役割について理解をし、その重要性を感じる事ができたと考える。

一方で、教師が提示した「キーワードを活用した」、「キーワードを参考にして自分の言葉が浮かんた」と回答した生徒は68%と高く、「キーワードがなくても言葉が浮かんた」と回答した生徒は11%にとどまった。研究では指揮や歌声など、言葉以外の方法によって考えや意図を表現する場面も見られたが、自分の考えを言葉にして伝えることには依然として課題が残った。今後は、キーワードなどの支援を活用しながら音楽を言語化する力を育成するとともに、指揮や演奏など多様な表現方法も生かしながら、生徒がより主体的に音楽表現を深めていけるようにしていきたい。